

管理者所見（26年度反省、27年度決意）

人間は年をとり、死に行く存在

平成26年度の当法人の財務。グループホーム以外は全て赤字という散々たるものでした。そんな組織の長としての責任はヒシヒシと感じております。27年度は全スタッフと共に、何としても黒字の部門を増やす事を決意しております。そして、スタッフの余裕ある生活を実現していきたい。と切に願っております。

地域包括ケアに取り組むのに異存はありませんが、年をとる事が悪い事のように思われないようにしたい。と願っております。デイなどでも麻痺のある方などに「ああなったら、おしまいだ。」などと、身体の元気な高齢者が言っていたりすると、とても悲しくなります。

何だか今の介護の流れもそれに似ています。

予防介護が始まった時も、同じような感じがしました。元気でいる事がいい事そのため

に努力せよ。と言われても、「生老病死は避

けられないのが人間」と思う自分がいます。

不老不死の薬を求めて、みんなが探し回って

いるような状態です。もちろん、お元気で過

ごせる事が、ご本人も周りも幸せです。でも、

いつかは最後が来るのです。全員がピンピン

コロリなら言う事ないのですが、そんな訳には

はいかないのが、人生です。

そして、人間は死ぬという現実を見たがら

ないのもおかしいと思っております。介護職

員がターミナルに付き合おうと「こんな重病人

は病院でみてもらわなければ」とすぐに病院

に押し付けたがるスタッフがおります。

ご本人、ご家族が望むなら、介護施設でも

良いではないかと思っております。いまどき

は癌末期の方など総合病院では治療しないの

なら、在宅か緩和ケアで、と提案している時

代なのに。介護職員の覚悟を促したいと思

います。その方の人生の最終章にお付き合いし、

自分の人生も見つめる事ができる素晴らしい

仕事をさせていただいているのだと思います

人材不足なので、同じ志の同志ばかりで成り立っていないのが当法人の現状でもあり、課題であると思いますが、最期まで支えたいという熱い人材を育てて参ります。

医療、他職種の方々との交流も密にし、関わった皆様に「私の人生もまんざら悪くなかった。」そう言って安心して歳をとり、最期を迎えていただけるように、本年も全職員、全力で皆様のために働いて参ります。

社会福祉法人　しあわせあっくん

法人施設長　寺西　久子